

日の里地区都市再生ビジョン

(令和7年11月策定)



■ ビジョンの目的

九州最大規模の住宅団地として誕生し発展してきた「日の里地区」は、開発から半世紀以上が経過した現在、全国にある多くのニュータウン同様、住民の高齢化や施設の高経年化等といった課題を抱えています。

一方で、近年は官民連携による住宅団地再生の動きも徐々に広がりを見せ、都市機能の集積や優れた居住環境の創出等により、将来にわたり持続可能となる都市づくりが推進しているところです。本ビジョンは、市民向けワークショップによる意見や地区内の活動状況などを踏まえるとともに、今後予測される社会や環境の変化を考慮し、日の里地区がめざすまちづくりの方向性を示すことで、官民連携による「まちの再生」を一層推進していくことを目的に策定したものです。

■ 対象エリア

東郷駅南東側に広がる日の里1丁目から9丁目を対象とします。

概要（令和7年3月末現在）

地区面積：2.18km²〈市域面積の約1.8%〉

地区人口：11,883人〈市域人口の約12%〉

地区世帯数：5,809世帯



1 日の里地区におけるまちづくりのコンセプト

日の里地区の特性を生かした特徴あるまちづくりを推進していくため、今後、生み出していきたい「まちの価値」をコンセプトとして掲げます。

「つくる、ひろがる、つながる、が続していくまち」

人、モノ、コトが交わりながら、世代や価値観、生活スタイルを越えて、
地域の中に新たな居場所や役割、つながりが育っていく。
そんな関係性が循環する暮らしをここ日の里から生み出します。

コンセプトを実現する3つの視点

つくる

人が関わることで、まちの可能性を広げる新しい取組みをつくる

ひろがる

まちで生まれた価値や関わる人が更にひろがっていく

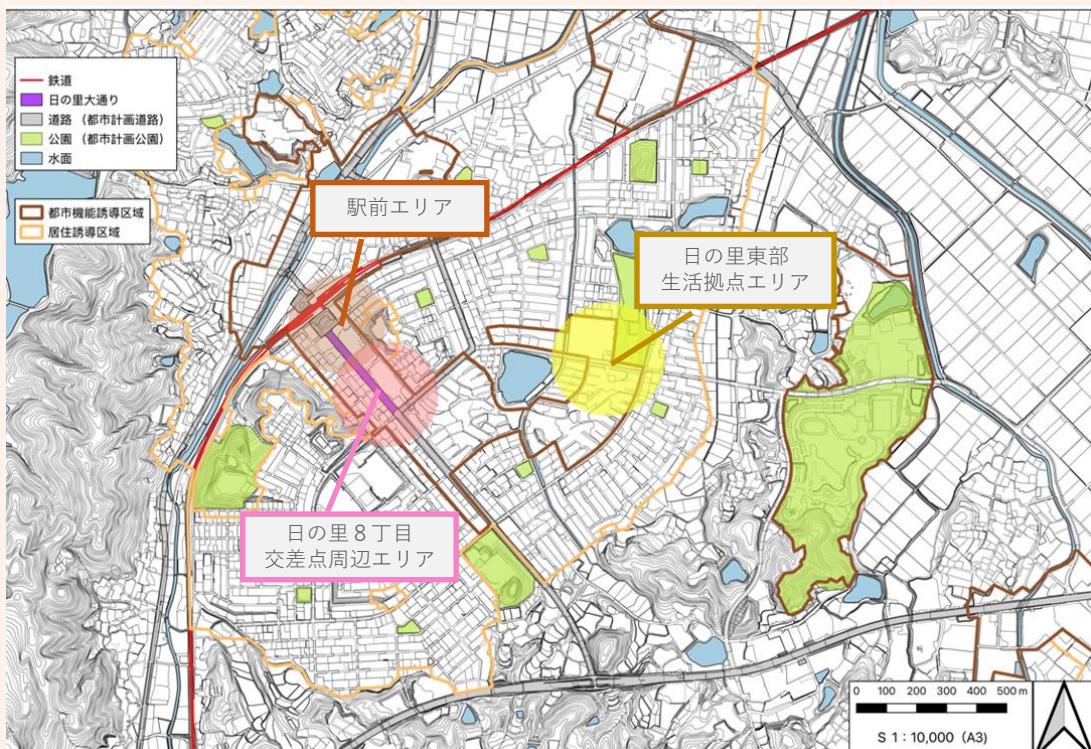
つながる

出会いや会話を通じて生まれる、新しい関係性でつながっていく

2 価値を生み出す先導的エリア

住宅団地という「居住の場」としての価値を最大限に高めていくことを念頭に、日の里地区のうち特徴ある施設や土地利用の方針を踏まえたまちの特性を考慮し、再生に取り組むことで波及性が特に高いと考えられる3つの重点エリアを設定します。

これら各エリアで取り組む再生事業をおいて生まれた特徴が相互に連携、補完し合うことで、地区全体ひいては市域全体へ住宅団地再生の効果を波及させていきます。



3 各エリア別まちづくりのイメージ

駅前エリア（まちの玄関口）

「人が集い、動き出す始まりの場」

人だけでなく、あらゆる情報や活動が交差するエリア。

複数の交通モードがスムーズにつながり、日の里大通りは賑わいのある「まちにひらかれた空間」へ



【取組方策】

○まちの第一印象を形づくる、象徴的な空間整備

駅を基点に駅周辺及び近郊の住宅地を含めた「駅まち空間」を形成することで、駅の機能と周辺のまちのにぎわいの両立を図る。

○人や車が共存し、誰もが心地良さを感じられる道路空間の創出

歩行者や自転車の目線に立ち、道路と沿道が一体的に活用できる道路空間の再編を推進します。

日の里8丁目交差点周辺エリア（まちのリビング）

「日常とにぎわいが重なる暮らしのまんなか」

日常的に使いたい、行きたくなる、暮らしの「まんなか」にあるエリア。

世代や社会的役割にとらわれない、暮らしを彩る出会いや刺激に溢れる空間へ



【取組方策】

○多様な機能と魅力が重なる、日々の活力を生み出す機能の整備

街区再編や建替えの更なる推進により、全国に誇れるまちの再生を強力に推進する事業を生み出し、官民連携で推進していきます。

都市機能のうち「商業、医療機能」を優先的に集積し、少ない移動で生活に必要な複数のサービスにアクセスできる利便性の高い拠点機能の開発を誘導

○都市的な生活が実感できる、まちの機能再編

日の里東部生活拠点エリア（まちの子ども部屋）

「再生の起点、新たな挑戦を育むエリア」

住宅団地再生の第一弾事業と称し、官民連携による事業に取り組んできた「住宅団地再生」を象徴するエリア。さまざまな挑戦を支え、育て続けていくことで、新たな価値を生み出す空間へ



【取組方策】

○日常の暮らしの中に、創造性や柔軟性を取り込む拠点機能の拡充

世代や社会的役割にとらわれず、このエリアに集う誰もが存在を認め合うことで、多様な主体が自然と交わり、活動、挑戦できる環境を創出

○日の里学園と連携した、新たな学びの可能性創造



日の里大通り周辺再生のイメージ模型（日の里中学校制作）